▲ HAYABUSAの歌とギター演奏

来賓代表であいさつする日高理事長・学長

▲ 懇親会で親交を深める校友たち

あいさつする甘竹会長

「08年度 校友会定時総会」開く

校友・家族・大学関係者250人が参集

「08年度校友会定時総会」が12月6日、東京・港区の「グランドプリンスホテル新高輪」で校友と家族、大学関係者ら約250人が参集して開催された。

甘竹秀雄会長はあいさつで「ビジネスを通じて連携できるような校友会を目指しています。本日のような機会を活用していただきたい。箱根駅伝にはぜひ多くの方の応援を」と呼び掛けた。来賓を代表して日高義博学校法人専修大学理事長・専修大学長が「このように総会を開催できることは来年の創立130年記念事業遂行に大変心強いものがあります」とあいさつした。

続いて水﨑保男総務部長からの諸報告、退任役員への感謝状贈呈が行われ総会を終了した。

懇親会は、角界で活躍するOB力士、北京オリンピック出場者、体育会優秀選手紹介があり、HAYABUSA（佐潟武さん＝平17商と坂室賢一さん＝平18経済）の歌とギター演奏、ケン正木さん（昭54経営）のマジック、原一平さん（昭36商経）の漫談が会場を沸かせた。最後に全学応援団のリードで校歌を斉唱して散会した。

▲ ケン正木さんのマジックショー

▶ 寅さんの物まねでおなじみの原一平さん

司会の若菜三千代さん（平10商・気象予報士）

▲ 書籍・グッズ販売も好評

▶ フィナーレは全学応援団のリードで校歌斉唱

▲ 退任役員への感謝状贈呈

▲ 今年度活躍した体育会の優秀選手を紹介

叙勲・褒賞受章者

12月10日現在判明分

◇旭日双光章
鈴木　俊幸氏（すずき・としゆき＝昭33商経）

◇瑞宝双光章
齋藤　昭氏（さいとう・あきら＝昭42法）
相馬　弘氏（そうま・ひろし＝昭62経済）
村田　尚氏（むらた・ひさし＝昭26法学）

◇黄綬褒章
永井　和彦氏（ながい・かずひこ＝昭32商経）

校友会からのお知らせ

〈顧問・相談役・参与懇談会〉
▽1月16日（金）受付17時30分、18時開会▽「神田キャンパス1号館15階報恩の間」

「ボジョレーを利く」江畑氏が講演
日高理事長を囲みワイン談議

第3回　ワイン大学

校友会ワイン大学が11月21日、神田キャンパスで行われ、校友、育友、在学生、教職員ら約120人が出席＝写真。

池本卯典校友会副会長、日高義博理事長・学長のあいさつのあと、昨年に続き、東京栄養食糧専門学校講師で、㈲シン・トレーディング代表取締役の江畑進一氏が「ボジョレーヌーボーを利く」と題して講演を行った。参加者たちはワイン談議に花を咲かせながら試飲を楽しんだ。

第2回校友会プチ講演会

OGの環境ジャーナリスト
村田佳壽子氏が講演

校友会プチ講演会が11月13日、神田キャンパスで行われ、校友、大学関係者ら約60人が出席した＝写真。環境ジャーナリストの村田佳壽子氏（昭56文）が「エコとサイコの意外な関係～地球環境問題と心理学」をテーマに、幸せの根本を地球環境問題の在り方と合わせ、人間の価値観、考え方、心の在り方を自身の経験と専修大学で学んだ心理学をもとに力説した。

OB落語家 立川談修さんを応援

品川支部有志が「聞く会」
「第2回あんこう寄席」

「第2回あんこう寄席」が11月20日、品川区の戸越公園落語・立川流二つ目、商店会館で開かれた。同立川談修さん（平7法）を応援しようと品川支部有志が結成した「談修の噺を聞く会・品川」（熊坂洋生会長・昭41経営）主催じ専大落研出身の、いなせ家半九郎さん（昭48経済）と鶯春亭梅朝さん（昭49文）も助演し、校友や地元商店街関係者ら61人が高座を楽しんだ＝写真。なお、品川支部では箱根駅伝の応援にも並々ならぬ力を注いでおり、毎年多くの校友が集まり大応援団となる。85回大会も大森ポイント（7面参照）でエールを送る。

新会長に古田氏（野球部）
体育会OB会幹事会を開催

11月11日、神田キャンパスで体育会21部23人のOB会長及び代表者が出席し、平成20年度体育会OB会幹事会が開催された＝写真。

繁住敏郎会長（昭25経学＝陸上競技部）のあいさつで開会し、平成19年度事業報告及び会計報告の後、新役員人事が発表され、満場一致で承認された。新会長には古田達男氏（昭36商経＝野球部）が就任し、繁住前会長は名誉会長となった。

幹事会後、懇親会を開き和やかに歓談。体育会OB会のますますの結束と各部の奮起を誓い、閉会した。

檜原和子さんが出品

画家の檜原和子さん（昭41法）が東京・上野の東京都美術館で10月に開かれた日仏交流150周年記念事業で国際現代美術協会が主催したｉｍａ展に作品「春の予感」を発表した＝写真。

校友の本紹介

零井脩介の最新作
心理サスペンス
『犯罪小説家』

昨年、映画化もされた『犯人に告ぐ』『クローズド・ノート』のヒットメーカー、零井脩介さん（平3文）の最新作。

新進作家、待居涼司の出世作『凍て鶴』に映画化の話が持ち上がった。監督に抜擢されたのが人気脚本家の小野川充。小野川は『凍て鶴』の作品のヒロインには、伝説的な自殺系サイト〔落花の会〕を運営していた木ノ瀬蓮美の影響が見られると、突拍子もない持論を展開。そんな小野川に待居は不気味さを感じ始める……。

零井さんは「久しぶりにサスペンスらしいサスペンスを書き切りました」と語る。2人のやりとりを軸に、ネット心中や掲示板など現代の底知れない〝闇〟を盛り込んだ心理サスペンス。

『犯罪小説家』（双葉社、本体1500円＋税）

東西の宗教が舞台
桂美人 第2作
『マラリア』

07年、デビュー作『ロスト・チャイルド』で「横溝正史ミステリー大賞」を受賞した際、桂美人さん（平8商）は「次回作は、東西の宗教を舞台にしたい」と語っていた。その宣言通り、最新作ミステリー『マラリア』はカトリック教会の中心バチカンと、曹洞宗の大本山・永平寺を舞台に、壮大なスケールで描いた。

主人公は永平寺で修行する青い目の雲水・唯慧。もうひとりは東京地検特捜部検事の神坂将史。欧州各地で起きた連続射殺事件を軸に、ストーリーは複雑に、巧妙に展開していく。前作に続き、独特なキャラクター設定や〝血筋〟を命題にしたところも特徴だ。

『マラリア』（角川書店、本体1600円＋税）